

第 39 回全国健康福祉祭東京大会 基本構想策定委員会

(第 1 回) 議事概要

1 日時

令和 7 (2025) 年 7 月 2 日 (水曜日) 10 時～11 時 20 分

2 場所

東京都庁第一本庁舎 25 階 113 会議室

3 出席者

川田座長、角田委員、高橋委員、吉井委員、黒羽委員、河野オブザーバー

4 議事

■ 挨拶

会議の冒頭に、出席者の紹介を行った。

■ 事務局説明

事務局より、会議資料に基づき説明を行ったところ、委員等からの質問はなかった。

- (1) 全国健康福祉祭 (ねんりんピック) の概要
- (2) ねんりんピック東京都開催に向けたスケジュール (案)
- (3) 第 39 回全国健康福祉祭東京大会 (仮称) 基本構想について
- (4) 東京都が目指す「長寿 (Chōju) 社会」

■ 議題及び意見交換

事務局より、会議資料に基づき各議題の説明を行ったあと、意見交換を行った。

- (1) 検討事項① 基本方針・大会目標
- (2) 検討事項② 大会の概要 (名称、愛称、テーマ、会期、マスコットキャラクター等)
- (3) 検討事項③ 事業体系・会場等

委員等からの主な意見は以下のとおり

(大会の方向性について)

- 基本方針について、「100 歳まで」と区切ると有限の印象を与えてしまうため、例えば「いくつになっても」といった考え方が良いのではないか。

- 高齢者が持っている可能性に焦点を当てて、いつまでも社会で活躍できるといった内容が基本方針や大会目標に入っていると良い。
- 歳をとることをネガティブに捉えず、「エイジレス」や「生涯現役」といった前向きな視点で考えていくことが重要

(大会の在り方について)

- 高齢者の活躍事例の紹介として、例えば中小企業の経営者や、伝統工芸等を発信できる機会があると良い。
- 大会をきっかけに、孤立しがちな高齢者を地域活動に参加させるための取組が必要
- 高齢者が元気を持つために、体と心のバランスの保ち方を紹介できるようなイベントが開催できれば良い。
- 大会の盛り上げには情報発信が重要。東京ならではの魅力を再発見し、具体的に打ち出すべき。観光ツアーのようなものを作成し、多摩地域等を盛り上げる取組があると良い。
- 企業の大会参加に向けて、企業にもメリットがあるような仕組みを考えるべき。
- 東京大会をどのようにしたいかを考えるに当たり、大会の構造的な部分を整理し、参加者がどのように大会に関わっていくべきか検討していくことが大事

以上